

## 急性期病院における口腔アセスメント能力の向上に関する研究

研究分担者 岸本 裕充 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 主任教授

### 研究要旨

多職種で構成される呼吸サポートチーム（RST）への参加を通じて、人工呼吸管理中の患者の口腔の状態をアセスメントした。口腔の状態が不良であることが見過ごされていることが珍しくなく、口腔管理を行う前提として、歯科以外の職種による口腔のアセスメント能力の向上が不可欠である。

### A．研究目的

急性期病院において、口腔管理による人工呼吸器関連肺炎（VAP）を含む誤嚥性肺炎や、抗がん剤・放射線治療による口内炎の予防効果が認知されつつある。しかしながら、歯科以外の職種にとっては、口腔の観察は必ずしも容易ではなく、口腔を適切にアセスメントできていない事例に時に遭遇する。

そこで、鎮静下にあるため開口に応じられず、気管チューブの存在によって口腔の観察が容易でない人工呼吸管理中の患者を対象として、口腔の状態をアセスメントした。

### B．研究方法

歯科医師・歯科衛生士を含む多職種参加で構成される呼吸サポートチーム（RST）の活動において、週1回のチーム回診時に口腔のアセスメント項目として、口腔乾燥度、歯垢・舌苔・剝離上皮の量、褥瘡性潰瘍の有無の年次推移を検討した。口腔乾燥度は Andersson らの ROAG に準じて、歯科用ミラーを頬粘膜上で滑らせた時の摩擦の度合いを目安とした。

（倫理面の配慮）

本研究は、過去の RST の活動における口腔に関する記録用紙から症状を、後ろ向きに集計したものであり、患者に対する不利益、危険性は一切ない。また、個人情報の漏洩がないよう配慮して研究を実施した。

### C．研究結果

チーム回診時に口腔のアセスメント方法やケア方法を担当看護師に教育することで、上記の5項目は、いずれも経年的に改善を認めていた。しかしながら、2010年の「呼吸ケアチーム加算」の保険導入で対象患者が拡大したのを境に、口腔乾燥度と褥瘡性潰瘍を有する患者の割合が増加した。口腔のアセスメント方法を再教育し、気管チューブの固定方法を見直すなどで、口腔乾燥度と褥瘡性潰瘍を有する患者の割合は再び減少した。

### D．考察

当院では他施設に先んじて RST を結成し、VAP 予防に努めてきた。2010年を境に、口腔乾燥度と褥瘡性潰瘍を有する患者の割合が増加した。重症度・部署などから、以前はチーム回診の対象とな

っていなかった人工呼吸管理患者の中に、口腔の問題を有する患者が潜在していたと推測された。

大学病院に入院している 900 名以上の患者全員の口腔の状況を当科で把握するのは困難である。口腔のアセスメントについては、人工呼吸管理中の患者だけでなく、各種口内炎やビスホスホネート薬による顎骨壊死が見過ごされていることを経験する。RST などのチーム回診や院内研修会、他科入院患者が当科を受診する機会などを通じて、各科の医師・看護師らによる口腔のアセスメント能力の向上を図る必要がある。

## E . 結論

RSTへの参加を通じて、人工呼吸管理中の患者の口腔のケアやアセスメントする方法を教育することで、口腔乾燥度、歯垢・舌苔・剥離上皮の量、褥瘡性潰瘍を有する患者の割合は減少した。

## F . 健康危険情報

なし

## G . 研究発表

### 1 . 論文発表

1 ) 木崎久美子, 岸本裕充, 木村政義, 富加見教男, 西 信一: 呼吸サポートチーム対象患者における口腔症状の年次推移 . 人工呼吸 2014 ; 31( 1 ), (印刷中)

2 ) 岸本裕充 . RST 活動におけるオーラルマネジメントの重要性 . 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 2013 ; 23(1) : 31-6

3 ) 岸本裕充, 高岡一樹, 野口一馬: 薬剤誘発性顎骨骨髓炎の臨床 . 歯界月報 2013 ; 747 : 38-46

### 2 . 学会発表

1 ) Kishimoto H, Urade M: Nationwide Survey for Bisphosphonate-Related Osteonecrosis

of the Jaws and Position Paper from the Allied Task Force Committee in Japan. 54th Congress of the Korean Association of Oral and Maxillofacial Surgeons. 26 April, 2013

## H . 知的財産権の出願・登録状況

なし